

日本政治学会 会報

The JPSA News

NO. 19

MAY 1990

政治学を考える

松下 圭一

私たちは、生活がめまぐるしく変化する都市型社会にきている。変化の永続する社会といってもよいだろう。進歩や発展の観念さえ、まどろこしいというような社会である。今日の新技術は明日には陳腐化する。伝統が支配していた、数千年つづく農村型社会をはなれて、現代の都市型社会が永続革命的な工業化・民主化を土台にもつかぎり、この変化の永続はやむをえない。

この生活レベルの変化に、政治レベルの激動がくわわる。私個人としても、一身にして二生どころか、三生をいきたという感慨をもつ。私の世代なら誰でも共通するだろうが、論評は別として、日本近代化の歴史特性をしめす1945年の敗戦、また昨1989年以降、20世紀国際政治の一方の極をなした「マルクス・レーニン主義」の公然たる崩壊がある。

この生活レベルの変化、また政治レベルの激動の早さと深さをめぐって、はたしてサイエンスとしての政治学は可能かという問が、あらためて必要となろう。というのは、周知のごとく、サイエンスは対象の斉一性・恒常性を前提としているからである。今日のように、社会がこの斉一性・恒常性をうしなっているとき、政治学は安易なサイエンス信仰を問いなおさざるをえない。

ついでまた、二つの論点がでてくる。

(1)社会がめまぐるしく動くので、政治学者も現実的であろうとすると、ウォッチャー型の作業が不可欠となるが、この課題領域はジャーナリズムとどこがちがうのか。

(2)社会の変動がはげしいため、既成の理論ないしパラダイムが時代オフレドころか時代錯誤となりがちであるとすれば、いわゆるアカデミズムは破綻するのではないか。

政治学は、今日、ひろく社会科学全般とともに、以上の緊張状況におかれているのである。

そのうえ、日本の先進状況への移行は、オピニオン・リーダーとしての学者の地位低下をひきおこしている。かつてはいわゆる先進国欧米という外国モデル依存が学者の威信をたかめていた。ところが、すでに欧米についての神秘性はなくなっている。それに主要メディアの変化もある。オピニオン・リーダーは活字による学者型からテレビのタレント型となる。

また富全体の増大とみあうのだが、先駆研究は、大学から企業や行政の研究所あるいはシンク・タンクにうつる。大学教授自体もその研究を、研究室ではなく公私の研究会やシンク・タンクでおこなうようになってきているではないか。私はかねて大学「図書館論」をのべてきたが、大学の役割は既成情報を整理して次世代へつたえるということにとどまるとみたい。それに、大学教授は助教授をふくめて15万人であるから、大学も今日では産業なのであろう。

政治学は、その存在条件を誰もか、たえず、問いなおすことが必要になっている。政治学がアクチュアルな成果をもとうとするならば、ここにみたような政治学の実存条件の問いなおしが不可欠であろう。

「年報」問題について

有賀 弘

昨年10月に開かれた日本政治学会の理事会で、「年報」問題について検討するための臨時委員会を設置することが決まり、小生が委員長に任命されました。その後、臨時委員会では数回の会合を開いて検討を重ねるとともに、随時、検討結果を理事会に報告して、理事会での検討もお願いしてきました。その結果、この問題を解決するための方向もほぼ明らかになってきましたので、ここで会員の皆様に問題の所在と解決のために取るべきだと考えられる方策とをお示しして、皆様のご意見をいただきたいと存じます。なお、ご意見は各理事、臨時委員会委員などにお寄せください。

問題の所在はかなりはっきりしています。すなわち、最近の学術書の出版事情等もあって、ここ数年、「年報」の発行部数も減少し、それに伴って出版元では定価を上げざるをえず、そのことがまた発行部数を減らすという、悪循環が始まってしまったことです。定価高のほかに編集方針も関係しているかとも思われますが、現在の発行部数

から考えますと、果して政治学会会員の何割の方が年報を購入されているのかも疑問です。

ここまで申しあげれば、対応策もかなりはっきりしていると思われる。それは、年報を会員に配布することにして発行部数を増やし、そのことによって定価を引き下げ、発行部数がさらに増大するという、悪循環の逆転です。ただ、このためには政治学会の会費（現在は年3,500円）を値上げせざるをえませんし、年報の編集方針も手直しして、現在の大特集主義から中特集プラス公募といった方針に転換することも必要ではないかと考えられます。また、科研費の成果刊行助成を受けることによって、定価の引き下げをはかるのも、有力な手段の一つです。

いずれにしろ、上述のような方向での改革は不可欠であり、10月の総会には、理事会から改革案が提案されることになるだろうと思われます。会員の皆様のご意見をお寄せくださることを期待しています。

1989年度 第3回理事会記録

12月9日（土）、午後1時30分から同志社大学新島会館において1989年度第3回理事会が開催され、以下の事項が協議・報告された。

〔協議事項〕

1. 1992年度総会・研究会開催校の件
琉球大学に打診し、その結果に基づき次期理事会で決定することが了承された。
2. 新入会承認の件
下記の者の新入会が承認された。
井戸正伸、神山伸弘、國廣敏文、小林道憲、周初、永井健晴、中島康予、中野勝郎、平島健司、文京洙、細谷正宏、真柄秀子、三輪和宏、村嶋英

治、山崎充彦

3. 次回理事会の件

1990年3月17日（土）午後3時から早稲田大学で開催されることが了承された。

〔報告事項〕

1. 委員会報告

①年報委員会

〈1989年度〉

1989年度『年報』（「近代化過程における政軍関係」）の入稿が終わり、年度内刊行の予定であることが、三谷委員長から報告された。

学 会 ニ ュ ー ス

〈1990年度〉

研究会が予定どおり進行している旨、阿部委員長から報告があった。

〈1991年度〉

『年報』の刊行にさいして科研費を申請した旨の村松委員長の文書による報告が、藤原常務理事から紹介された。

②文献委員会

〈1989年度〉

1988年度文献リストの入稿が終わった旨の中村(勝範)委員長の文書による報告が、内田理事長から紹介された。

〈1990年度〉

西田委員長から、1989年度文献リストの作成にさいして、慣例により、会員に業績の自己申告を依頼することが報告された。

③渉外委員会

佐々木委員長から、1991年度のIPSA第15回世界大会(ブエノスアイレス)では、45のセッションが置かれることが決定されたこと、また、日本政治学会とアメリカ政治学会との間で、今後3年間にわたる研究者の総会・

研究会への相互派遣(それぞれ、日本政治専門家1名、アメリカ政治専門家1名、その他1名)についての交渉が進行中であり、人選その他のつめを1990年1月に行なう方向で準備を進める手はずであることが報告され、了承された。

④政治教育・情報に関する臨時委員会

「政治学教育に関する情報化・国際化についての調査」および「政治学に関連する各種データベースの調査」の実施のために科研費を申請した旨の田口(富久治)委員長の連絡が、内田理事長から紹介された。

⑤年報問題に関する臨時委員会

有賀委員長から、『年報』の現状と問題点が説明され、今後の委員会作業日程が報告された。

委員：阿部齐(放送大学)、有賀弘(東京大学)、岩井奉信(常磐大学)、内山秀夫(慶應義塾大学)、加茂利男(大阪市立大学)、阪野智一(神戸大学)、田口富久治(名古屋大学)、田中愛治(東洋英和女学院大学)、成沢光(法政大学)、平島健司(東京大学)、藤原保信(早稲田大学)、村松岐夫(京都大学)、山口定(大阪市立大学)

1989年度 第4回理事会記録

3月17日(土)、午後3時20分から早稲田大学政治経済学部第二会議室において1989年度第4回理事会が開催され、以下の事項が協議・報告された。

〔協議事項〕

1. 1989年度決算報告承認の件

藤原常務理事より1989年度の決算報告があり、今村監事より監査報告がなされ、承認された(別掲5頁参照)。

2. 1990年度予算案承認の件

藤原常務理事より、1990年度の予算案が説明され、承認された(別掲5頁参照)。

3. 1992年度総会・研究会開催校の件

総会・研究会を琉球大学で開催することが決定された。

4. 修補会員名簿作成の件

1988年4月の名簿作成以降の新入会員と名簿記載事項変更会員について、修補名簿を作成し、会員に配布することが内田理事長より提案され、了承された。

5. 国際平和研究学会の開催の後援の件

日本平和学会からの正式依頼に基づき、来る1992年7月26～30日に京都国際会議場で開催予定の国際平和研究学会(IPRA)の

学 会 ニ ュ ー ス

第14回総会を後援することが決定された。

6. 入会承認の件

下記の者の新入会が承認された。

油川洋、石井貫太郎、大塚桂、小笠原欣幸、滝沢荘一、原彬久、古川浩太郎、守屋治善、渡辺治

7. 次回理事会の件

1990年6月23日(土)午後1時30分から早稲田大学で開催されることが了承された。

〔報告事項〕

1. 委員会報告

①企画委員会

〈1990年度〉

1990年度研究会(熊本大学)の企画概要が安委員長から提案され、了承された(別掲6頁参照)。

②年報委員会

〈1989年度〉

1989年度『年報』が3月末に刊行予定である旨、三谷委員長から報告された。

〈1990年度〉

研究会が予定どおり進行している旨、阿部委員長から報告された。

〈1991年度〉

執筆委員の人選もほぼ完了し、すでに第1回

研究会を開催した旨、村松委員長から報告された。

③文献委員会

〈1990年度〉

現在までに219名の業績自己申告があった旨、西田委員長から報告された。

④渉外委員会

佐々木委員長から、1991年度IPSA第15回世界大会のプログラムが決定され、分科会の組織化が進んでいること、また、1990年度から予定されていたアメリカ政治学会と日本政治学会との研究者交流計画は、財政事情により流動的になったことが報告された。

⑤政治学教育・情報に関する臨時委員会

田口(富久治)委員長から、科研費がとれ次第、「政治学教育に関する情報化・国際化についての調査」および「政治学に関連する各種データベースの調査」を実施する予定であることが報告された。

⑥年報問題に関する臨時委員会

有賀委員長から、『年報』の会員配布の方向で検討作業を行なっていること、そして、会費、編集方針、文献目録のあり方などが重要な検討課題であることが報告された。

会 員 の 異 動 (1990年5月8日現在)

学 会 ニ ュ ー ス

1989年度予算・決算			
		予 算 額	執 行 額
収 入	1.前年度繰越金	8,715,730	8,715,730
	2.会費収入	3,657,500	3,782,530
	3.雑収入	120,000	131,178
	収 入 合 計	12,493,230	12,629,438
支 出	1.研究会開催費	980,000	980,000
	A.研究会準備金	700,000	700,000
	B.報告者謝礼	280,000	280,000
	2.委員会経費	560,000	560,000
	A.年報委員会	120,000	120,000
	B.企画委員会	160,000	160,000
	C.文献委員会	150,000	150,000
	D.渉外委員会	100,000	100,000
	E.選挙管理委員会	30,000	30,000
	3.理事会経費	60,000	59,062
4. IPSA学会分担金	250,000	210,213	
5.事務局経費	840,000	654,483	
A.理事長通信費	50,000	50,000	
B.運営費	50,000	50,000	
C.人件費	460,000	460,000	
D.経常費	280,000	94,483	
6.名簿作成積立金	200,000	200,000	
7. IPSA関係積立金	100,000	100,000	
8.選挙管理費	360,000	312,554	
9.会報発行費	350,000	265,312	
10.予備費※	8,793,230	402,000	
支 出 合 計	12,493,230	3,743,624	
差 引 残 高		8,885,814	

1990年度予算		
		予 算 額
収 入	1.前年度繰越金	8,885,814
	2.会費収入	3,790,500
	3.雑収入	130,000
	収 入 合 計	12,806,314
支 出	1.研究会開催費	1,030,000
	A.研究会準備金	750,000
	B.報告者謝礼	280,000
	2.委員会経費	530,000
	A.年報委員会	120,000
	B.企画委員会	160,000
	C.文献委員会	150,000
	D.渉外委員会	100,000
	E.選挙管理委員会	0
	3.理事会経費	70,000
4. IPSA学会分担金	250,000	
5.事務局経費	900,000	
A.理事長通信費	60,000	
B.運営費	60,000	
C.人件費	500,000	
D.経常費	280,000	
6.名簿作成積立金	250,000	
7. IPSA関係積立金	100,000	
8.選挙管理費	0	
9.会報発行費	350,000	
10.予備費	9,326,314	
支 出 合 計	12,806,314	
差 引 残 高		0

※ 10.予備費の支出内訳は、①1991年度年報つなぎ資金(¥300,000)、②政治学教育・情報に関する臨時委員会経費(1989年度上・下半期分¥60,000)、③年報問題に関する臨時委員会経費(1989年度下半期分¥30,000)、④1989年度研究会報告者謝礼1名分(¥8,000)、および⑤監査時の監事交通費(¥4,000)。

別会計(1)名簿作成積立金	
収入	
前年度よりの繰越	86,851
本年度積立	200,000
銀行預金利息	837
計	287,688
支出	
	0
差引残高	287,688

別会計(2)IPSA関係積立金	
収入	
前年度よりの繰越	625,784
本年度積立	100,000
銀行預金利息	10,676
計	736,460
支出	
	0
差引残高	736,460

IPSA基金	
収入	
前年度よりの繰越	9,156,569
銀行預金利息	315,965
計	9,472,534
支出※※	
	450,000
差引残高	9,022,534

※※ IPSA基金の支出内訳は、IPSA企画委員会への派遣費用。

学 会 ニ ュ ー ス

1990年度研究会企画

第1日(10月6日)

<午前>

分科会A 西欧社会主義の「終わりなき課題」

司会 西尾孝明(明治大学)

報告 永井清彦(帝京大学):(未定)

高柳先男(中央大学):(未定)

討論 高橋 進(東京大学)

杉本 稔(日本大学)

分科会B スターリン体制とベレストロイカ
—— 地方政治をめぐる状況 ——

司会 下斗米伸夫(法政大学)

報告 中村逸郎(学習院大学):ベレストロイカ
のよりのモスクワ党組織

内田健二(岩手大学):大粛清下の地方政
治——アゾフ・黒海地方を中心に

討論 富田 武(成蹊大学)

吉川 元(広島修道大学)

分科会C 中国の政治——歴史と現代

司会 宇野重昭(成蹊大学)

報告 山田辰雄(慶應義塾大学):中華民国史か
ら見た天安門事件

小島朋之(京都産業大学):中華人民共和
国史から見た天安門事件

討論 平野健一郎(東京大学)

天児 慧(共立女子大学)

分科会D 独立30周年のアフリカをどう把えるか

司会 川端正久(龍谷大学)

報告 青木一能(日本大学):政治変動の軌跡と
展望

佐藤 誠(立命館大学):アフリカの危機
と国家

討論 小田英郎(慶應義塾大学)

山口圭介(北九州大学)

<午後>

分科会E 比較政治・思想の方法

司会 田中 浩(大東文化大学)

報告 山室信一(京都大学):土地所有思想をめ
ぐるヨーロッパ・中国・日本

小沢 亘(一橋大学):18世紀末イギリ
スにおけるルソー思想の影響——ペイン、
バーク、ゴドウィンをめぐり——

討論 宮村治雄(東京都立大学)

小野紀明(神戸大学)

分科会F 東欧社会主義の改革

司会 木戸 蕪(神戸大学)

報告 家田 修(広島大学):ハンガリーの政治
改革

定形 衛(大分大学):ユーゴにおける民
族問題

討論 林 忠行(広島大学)

木村 朗(鹿児島大学)

分科会G 現代国家におけるナショナリズム

司会 佐々木 毅(東京大学)

報告 泉 昌一(桜美林大学):アメリカにおけ
る“ニュー”ナショナリズム

森本哲郎(奈良産業大学):第五共和制フ
ランスにおける産業政策とナショナリス
ム

討論 五十嵐武士(東京大学)

大嶽秀夫(東北大学)

分科会H 日本資本主義の国家像

司会 岡本 宏(熊本大学)

報告 加藤哲郎(一橋大学):日本型多国籍企業
の国家像

安藤 実(静岡大学):小日本主義の源流
と展開——三浦鏡太郎と石橋湛山の言論
を通して

討論 形野清貴(大阪経済法科大学)

井田輝敏(北九州大学)

第2日(10月7日)

<午前>

共通論題A 日本における政軍関係
—— 戦前と戦後 ——

司会 三谷太一郎(東京大学)

報告 北岡伸一(立教大学):戦前

廣瀬克哉(法政大学):戦後

討論 斎藤 真(国際基督教大学)

坂野潤治(東京大学)

中馬清福(朝日新聞)

<午後>

共通論題B 現代政治理論

司会 猪口 孝(東京大学)

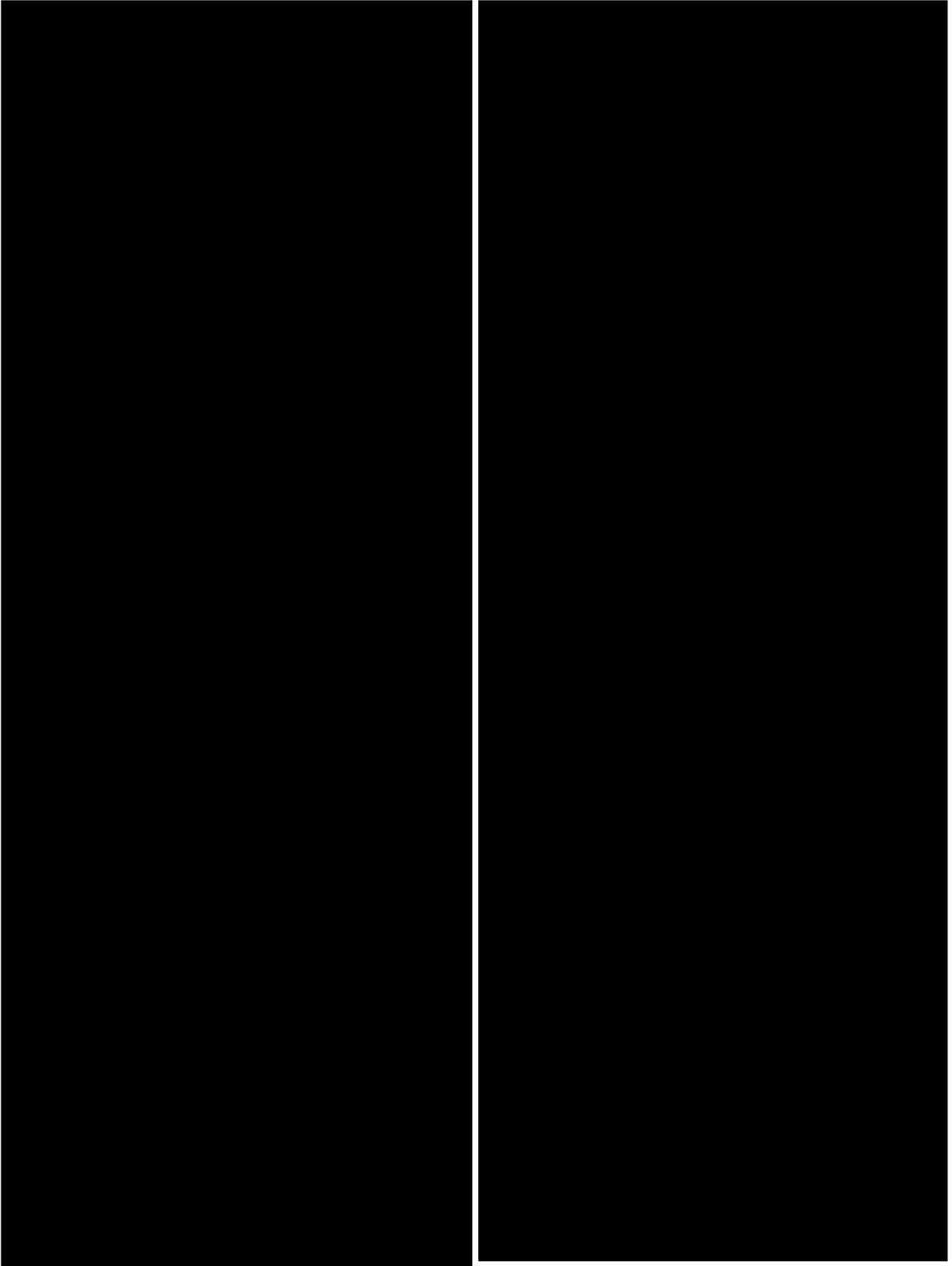
報告 蒲島郁夫(筑波大学):民主政治理論

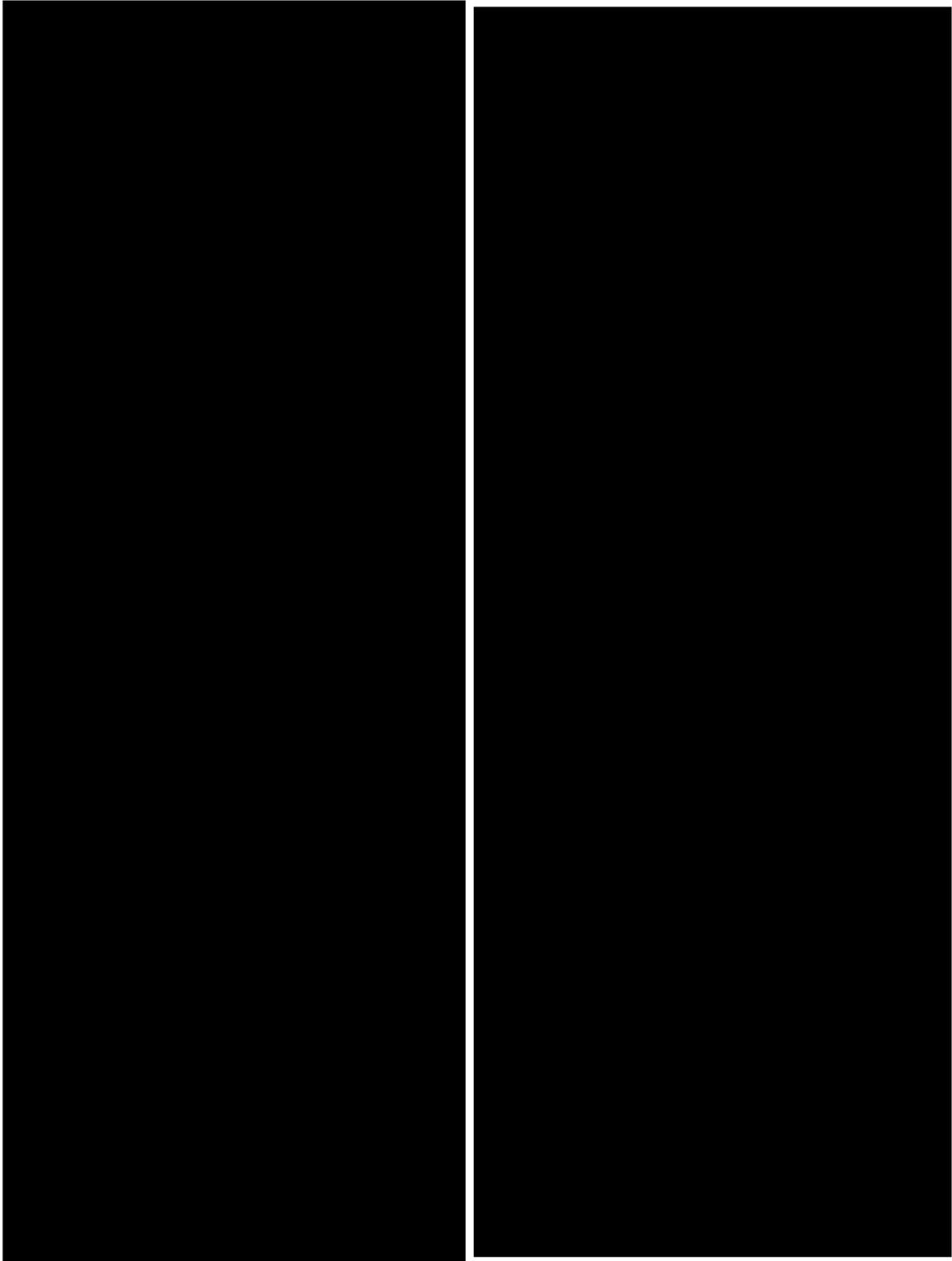
山本吉宣(東京大学):国際政治理論

討論 今田高俊(東京工業大学)

村松岐夫(京都大学)

堀江 湛(慶應義塾大学)





学 会 ニ ュ ー ス

事 務 局 よ り

学 会 記 録

日本政治学会が1948年11月5日に創立されて以来、すでに41年が経過し、この間、昨年度までに実に53回の総会・研究会が開催されました。総会・研究会開催校の一覧は以下のとおりです。

1949年度から1959年度までは、年間春・秋2回の研究会が開催されました。また、1981年にはIPSAの円卓会議が開かれましたので、同年度の総会・研究会は、1982年3月に開催されました。(なお、総会・研究会が2回以上開催された大学については、その大学名の後に開催回数を示してあります。)

〈総会・研究会開催校一覧〉

1948	東京大学(創立総会)
1949	早稲田大学・慶應義塾大学
1950	中央大学・同志社大学
1951	明治大学・日本大学
1952	東京都立大学・関西学院大学
1953	法政大学・立命館大学
1954	学習院大学・関西大学
1955	東京教育大学・京都大学
1956	成蹊大学・大阪大学
1957	一橋大学・大阪市立大学
1958	専修大学・同志社大学(2)
1959	拓殖大学・神戸大学
1960	立教大学
1961	京都大学(2)
1962	中央大学(2)
1963	立命館大学(2)
1964	慶應義塾大学(2)
1965	名古屋大学
1966	九州大学
1967	中央大学(3)
1968	関西学院大学(2)
1969	成蹊大学(2)

1970	同志社大学(3)
1971	岡山大学
1972	上智大学
1973	北海道大学
1974	埼玉大学
1975	金沢大学
1976	専修大学(2)
1977	神戸大学(2)
1978	慶應義塾大学(3)
1979	東北大学
1980	北九州大学
1981	(IPSA円卓会議)
1982	中央大学(4)・近畿大学
1983	早稲田大学(2)
1984	新潟大学
1985	東京大学(2)
1986	龍谷大学
1987	日本大学(2)
1988	広島大学
1989	神奈川大学
1990	熊本大学
1991	明治大学(予定)
1992	琉球大学(予定)

また、この間、会員数も増加し続け、1988年には、1,000名を越えました。理事公選制採用後の会員数の推移は、以下のとおりです。(1978年から1989年までの会員数は、それぞれ4月1日の有権者名簿確定時のもの、1990年度会員数は、5月8日現在のものです。)

〈会員数の推移〉

1978.	4	760名
1979.	4	694名
1981.	4	778名
1983.	4	814名
1985.	4	949名
1987.	4	988名
1989.	4	1,084名
1990.	5	1,132名

学 会 ニ ュ ー ス

会費納入についてのお願い

新年度にあたり、会費（3,500円）を同封の振込用紙にてお支払いいただきますようお願い申し上げます。なお、前年度会費が未納の会員の方には、2年度分会費印刷済みの振込用紙が同封されております。

修補名簿の作成について

日本政治学会事務局では、1988年4月の名簿作成以降の新入会員と名簿記載事項変更会員について、修補名簿を作成し、本年中に会員の皆様に配布する予定です。つきましては、住所・電話・勤務先・所属・職位等に変更のございます方は、お早めにお知らせくださいますようお願い申し上げます。

Lehmbruch教授の来日について

ネオ・コーポラティズム論などで有名な、世界政治学会（IPSA）の副会長でコンスタンツ大学教授のゲアハルト・レームブルッフ氏が学術振興会の招きで今秋来日します。同氏は9月15日から12月中旬まで滞在する予定で、10月の政治学会での講演が計画されていますが、もし講演、研究会での報告をご希望の場合には、東京大学社会科学研究所の平島健司助教授までお申し出ください。なお、謝礼などはお考えいただくなくてもよいと思います。

関連学会の研究会開催予定

- 政治思想研究会（JAPAN CSPT）
第2回研究集会『リベラリズムの再考察——理論と歴史』

日時： 1990年5月26・27日

場所： 成蹊大学

- 日本行政学会

日時： 1990年5月26・27日

場所： 中央大学（神田記念館）

- 日本平和学会

平成2年度春季研究大会

日時： 1990年6月2・3日

場所： 関西大学

- 社会思想史学会

第15回大会

日時： 1990年10月13・14日

場所： 中央大学（駿河台校舎）

訃 報

下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

清宮四郎氏（東北大学名誉教授）1989年10月22日没

法制・憲法論専攻，1899年生まれ

尾形典男氏（立教大学名誉教授）1990年1月18日没

政治思想史専攻，1915年生まれ

役職：理事 1954～1968年

1990年 5月20日

発行 日本政治学会事務局

藤 原 保 信

〒169 東京都新宿区西早稲田1-6-1

早稲田大学大学院政治学研究科内

TEL 03-203-4141-3113

郵便振替番号 東京 0-84250

加入者名 日本政治学会

印刷

双葉工芸印刷株式会社